2年間の活動を終えて

ＮＰＯ法人　地域福祉サポートちた　竹内美詠子

学生の現場活動2年目が終わった。昨年子育て関係のNPOを選ぶ学生が多かったため、今年は子育て関係の団体を4団体増やし、活動が始まった。2年目ということもあり、昨年に比べるとスムーズに終えることができたように感じた。今年は月 1 回の運営委員会に参加させていただき、担当の先生や学事課の方達が学生の様子や講義、今後の予定、課題などの話し合いを何度も重ね、大学側が真剣にこのプログラムに取り組んでいるのだと感じた。また、ＮＰＯ側も忙しい中、ほとんどの団体が、事前打ち合わせ・ふりかえり会・報告会と、3度も大学に来ていただいた。こうしたＮＰＯの協力もスムーズにいった理由のひとつだろう。学生も先輩方からサービスラーニングは大変だという噂を聞き、授業を選択しない学生もいたということだが、あえてこのたいへんなサービスラーニングを選択する学生の熱意に対し敬意を払いたい。この活動はまさに、学生、大学、ＮＰＯの 3 者が協働して取り組んでいるプログラムと言えよう。共育ネットはんだの視聴覚障害児グループとブラジルの子ども達のダンスチームのバスケット交流練習会や、絆の「きずなまつり」など、学生が関わったからこそできた取組みがいくつもあった。

サポートちたには 2 名の男子学生が活動先として来てくれた。やる気満々で、いくつもやりたいという企画を持っていた。ただ、基本 6 日間の現場体験でできる内容ではなく、話し合いの結果、たくさんの人に福祉やＮＰＯに関心を持っていただくということを目標に、①アンケート、②サポートちたのマスコットキャラクター募集、③ホームページを持っていないＮＰＯの活動内容をサポートちたのホームページに載せるための取材、④サービスラーニングの活動をサポートちたの会報に載せる、ということになった。これでも多すぎるくらいだが、2人とも精力的に取り組んだ。取材先の訪問予定時間への遅刻や、会報の記事が閉め切りを過ぎてもうまくまとめられなかったことで、私や時には他のスタッフからも厳しいことを言わることもあった。失敗や、上手くいかなかったこともあった。だからこそ、この活動を通じて2人とも成長したのではないだろうか。1人は夏以降も、フォーラムの手伝いなど、続けてサポートちたに関わってくれている。

次年度以降もサービスラーニングを日本福祉大学の特色ある教育活動のひとつとして継続していく予定であるが、大学や他のＮＰＯと協力して、よりよい中身にしていきたいと思う。